

伊賀市多文化共生推進プラン事業実績シート

第1期(2023-2026)

【2023(令和5)年度】

事業進捗状況調書

■施策の展開■

1. だれもが安全に安心して暮らせる地域づくり 1-A-(1) 災害時・緊急時における協働体制の確立 1-A-(2) 外国人住民の高齢化への対応 1-A-(3) 地域における生活支援の充実 1-A-(4) 生活困窮等対策の充実 1-B-(1) さまざまな相談に対する支援の充実 1-C-(1) 就労と居住に関する支援の充実 1-C-(2) 外国人差別への対応	2. 教育・子育てしやすい地域づくり 2-A-(1) 子育て情報の充実 2-A-(2) 子ども・若者の居場所づくり 2-B-(1) 児童生徒一人ひとりに合った教育の推進 2-B-(2) 子育て支援に関する相談の充実 2-C-(1) 日本語指導、進学指導の充実 2-C-(2) 就学に関する情報提供の充実
3. 国籍を越えた交流による地域づくり 3-A-(1) 「やさしい日本語」の普及 3-B-(1) 文化・スポーツ交流の促進 3-C-(1) 学習・文化活動に参加できる環境づくり 3-C-(2) 外国人住民との連携・協働	4. 外国人住民も活躍する地域づくり 4-A-(1) 日本語学習機会の拡充 4-A-(2) 双方向による情報受発信 4-A-(3) 外国人への偏見・差別の解消 4-B-(1) 住民の声を聴くための機会づくり 4-C-(1) まちづくり、地域づくりへの参画 4-C-(2) 外国人住民の人材育成と支援者の人材育成 4-C-(3) 外国人起業家などへの支援

「施策の取組の方向」は、

- 「A」 早急に取り組むべきもの
- 「B」 すぐに取り組めるもの
- 「C」 じっくり取り組むものと分類し表記しています。

伊賀市多文化共生推進プラン（第1期）進捗管理シート

展開 方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2023(R5)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	2023（R5）実施事業の進捗状況・実績						
						事業の実施内容	事業の効果・課題・改善案	タイプ※	指標名	見込値	実績値	進捗状況
1 だれもが安全に安心して暮らせる地域づくり												
1-A- (1)	災害時・緊急時 における協働体 制の確立	① 平時からの情報 の充実	◆多言語と「やさしい日本語」に よるさまざまなツールを通じた情 報提供	防災危機対策局	国際交流フェスタにおける防災啓発及び伊賀市防災・情報アプリ等での情報発信（多言語・やさしい日本語）	10月1日開催の国際交流フェスタで防災危機対策局でブース出展し、外国人防災リーダーと連携して、伊賀市防災・情報アプリHAZARDONの多言語登録の啓発を実施した。	イベントでの啓発だけでなく、通常時から多文化共生センターや外国人防災リーダーと連携して、防災(自助・共助・防災情報) 啓発や伊賀市防災・情報アプリHAZARDONの多言語登録を推進する必要がある。	b：取組 実績把握			—	計画通り進め ている
				秘書広報課	公式ホームページの多言語翻訳とやさしい日本語機能、および「カタログポケット」アプリでの広報いがの多言語翻訳を継続して運用する。	公式ホームページに多言語翻訳とやさしい日本語での閲覧が出来るようにしている。広報いがも毎号カタログポケットアプリによる外国語版の提供を行っている。	引き続き、多言語及びやさしい日本語での発信ができるよう運用していく。	b：取組 実績把握			—	計画通り進め ている
				地域連携部 各支所	施設内の案内表示を多言語に対応した解りやすいものにする。	（上野支所）上野支所入口の案内表示にルビを追加し、ローマ字及び英語併記にする。 （伊賀支所）伊賀支所移転案内チラシの多言語表記を実施。 （阿山支所）施設案内に、ふりがなやローマ字表示を追加しました。 （青山支所）青山複合施設における非多言語対応であった案内箇所に、英語表記を追加した。	（上野支所）今後、英語以外の言語での表示を行う。行政機関への届出等の相談で来庁されることがあり、日本語が通じない場合は4階の多文化共生センターと連携し案内を行う。 （伊賀支所）日本語以外のサイン表記を実施。 （阿山支所）案内すべき内容はたくさんありますので、今後どういった内容の案内表示を増やしていくか要望を踏まえながら検討します。 （青山支所）外国人の来庁者が担当窓口を認知しやすくなった。	b：取組 実績把握			—	計画通り進め ている
				多文化共生課	イベントなどの機会に防災啓発を行うとともに、多言語情報紙及び多文化共生センターfacebook等を活用した生活情報を提供します。（多言語・やさしい日本語）	多言語情報紙や多文化共生センターfacebookで防災アプリ「HAZARDON」や、災害に備えるための情報などの周知を行いました。	防災アプリ「HAZARDON」の周知を継続するとともに、どんな情報を見ることができるか等、具体的な活用方法も周知していく必要があります。	b：取組 実績把握			—	計画通り進め ている
				伊賀の伝丸	SNSを活用した多言語やさしい日本語での情報発信	県、または県内NPOなどから発信される情報をFacebook,ホームページでの情報発信（おもにやさしい日本語での発信）	すでにSNSでつながっている人への訴求は一定程度実績があるが、SNSも多種多様なので今後どの媒体が適当なのか検討していく必要がある。				—	
		◆企業等における情報入手手段等の周知	エクセディ	避難訓練や安否確認メール訓練の実施	・避難訓練や安否確認メール訓練の実施	・安否確認メール訓練 2023/7/26、11/15実施済 2024/3/11予定 避難訓練 2024/3/11実施予定				—	計画通り進め ている	
		② 情報を「つなぐ」機能と体制の構築	◆既存のネットワークや企業、地域等の「まとめ役」を通じた情報伝達のしくみづくり	医療福祉政策課	地域生活課題について地域住民主体で解決に向けて協議を行う地域福祉ネットワーク会議を中心に、災害時においても情報が地域内で共有できるしくみを検討します。	各地域で地域福祉ネットワーク会議が開催され、情報共有についても検討されました。	地域アセスメントなどをふまえ、地域の状況に応じたしくみづくりが必要です。	b：取組 実績把握			—	計画通り進め ている
				伊賀の伝丸	登録通訳者や日本語講師を介した情報発信	登録通訳者さんは、各国出身者の中でもキーパーソンになりえる人が多いので、その人たちからSNSを使った情報発信。	企業に派遣している日本語講師は、日常生活、あるいは業務分野の情報に特化した情報を教えてはいるが、地域の安全というところまでは広げられていない。				—	
				エクセディ	・緊急連絡先の把握 ・通訳を介した情報発信	・緊急連絡先の把握 ・通訳を介した情報発信	・伊賀市の情報、イベント等を発信中 「やさしいほんごじょうほうし いが」、 「伊賀市ごみ分別アプリ（自動翻訳）」 「伊賀市国際交流フェスタ2023」など				—	計画通り進め ている
	◆ニーズ・困りごとの把握			同和課	各隣保館等総合相談事業での外国にルーツのある方等の施設等利用・総合相談件数調査	総合相談数：1件 イベント・行事参加者数：22人	行事に参加し、お互いに顔見知りになることにより、困った時に声掛けができたり助け合える関係性を築く機会の提供ができた。	b：取組 実績把握			—	計画通り進め ている
		多文化共生課	外国人住民アンケート調査の継続実施、また、平時の相談業務からニーズ・困りごとなどの把握に努めます。	外国人住民アンケートを実施しました。（回答数：247人） 相談内容を課内で情報共有し、必要な支援が受けられるよう関係課と連携を図りました。	国際交流フェスタの会場でアンケートを実施したことで、多くの住民の声を聞くことができました。 課内の情報共有をしっかりとすることで、表面的な困りごと以外にほかの問題を把握し、担当課へ繋がれたケースがありました。	b：取組 実績把握			—	計画通り進め ている		
		伊賀の伝丸	伴走支援中の家庭の現状把握	日ごろから連絡をとりあい、きめ細やかなサポートをしている。	現状のマンパワー、資金には限界もあり、継続も危ぶまれる				—			
	③ 地域参加を通じた日頃からの関係づくり	◆自治会及び自主防災活動への参加促進（「自治」への理解を深める）	防災危機対策局	防災知識の普及、訓練を実施する際、多様なニーズに十分配慮し、参加しやすい環境整備（防災講話等）	住民自治協議会や自主防災組織（自治会等）等からの要請により、地域防災力の向上を目的とした防災講話や防災訓練の指導、防災アプリの説明登等を行う。	市職員による防災講話や防災訓練の指導、防災アプリ登録等を年間100回以上実施し、地域防災力の向上図ったが、毎年要請がある団体とない団体があることから、出前講座（防災講話等）の広報をする必要がある。また、地域防災力向上のために地域に出向く職員の確保が課題となっている。	a：数値 把握	防災講話	65回	120回	計画通り進め ている	
			伊賀の伝丸	自治会等の「外国人住民への広報」のサポート	地域防災リーダーの積極的な周知。能登地震のボランティア参加者への注意事項の配布など	顔がみえる距離にいますので、防災リーダーのその後の活動にも支援ができています。				—		

展開 方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2023(R5)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	2023（R5）実施事業の進捗状況・実績						
						事業の実施内容	事業の効果・課題・改善案	タイプ※	指標名	見込値	実績値	進捗状況
			◆外国人防災リーダーの養成	多文化共生課	外国人防災リーダーを育成する。（伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースを活用）	伊賀市地域活動支援事業を活用し、伊賀市災害ボランティアセンターと協働で外国人防災リーダー育成事業を実施しました。	外国人住民への防災情報の発信や啓発活動など、外国人防災リーダーの活躍がみられました。	a：数値把握	外国人防災リーダー研修	受講者累計人数30人	31人	計画通り進めている
				医療福祉政策課	災害時に自分の身を守り、防災啓発を行うリーダーを養成するために、引き続き外国人防災リーダーの養成に努めます。	3日間の養成講座が1回開催され、17名の外国人防災リーダーを養成しました。	防災啓発、情報伝達の担い手の確保のため有効な取り組みであり、引き続き実施します。	a：数値把握	外国人防災リーダー研修	15人	17人	計画通り進めている
				伊賀の伝丸	養成講座へノウハウの提供や事業協力	地域防災リーダー養成講座へのアドバイス	外国人の文化など積極的にアドバイスし、事故などを未然に防いでいる				—	
				社会福祉協議会	外国人防災リーダーの育成事業（伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースを活用）	災害時に自分の身を守り、防災啓発活動を行う外国人防災リーダーの養成。	今年度は17名の外国人防災リーダーを養成。伊賀市総合防災訓練への参画など、地域住民と関わる機会も増えており、活動の啓発にも繋がっている。	a：数値把握	外国人防災リーダー研修受講者数	受講者累計人数30人	31人	計画通り進めている
	④ 防災知識の普及	◆防災教室・防火救命講習の開催		消防本部（各課）	防火救命講習を開催する。	災害時に自分の身を守り、防災啓発活動を行う外国人防災リーダーの養成。	消防署職員による防災・防火救命講習により、防災知識の向上と救命活動につながる人材を養成。	a：数値把握	防火救命講習を開催する。	1回以上	3回	計画通り進めている
				国際交流協会	イベントなどでの防災知識の普及	・国際交流フェスタで、市・女性消防団・外国人防災リーダーブースへの出展を依頼、防災知識の普及活動を行う。 ・ひゅーまんフェスタ2023に出展、「減災アクションゲーム」を行う。 ・同ゲームを漢字学習支援教室においても行う。	本年度は、計画のとおり実施できた。今後の取組方法の検討を行う。		防災知識の普及	実施する	—	計画通り進めている
				社会福祉協議会	外国人防災リーダーの育成事業（伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースを活用）	災害時に自分の身を守り、防災啓発活動を行う外国人防災リーダーの養成。	消防署職員による防災・防火救命講習により、防災知識の向上と救命活動につながる人材を養成。	a：数値把握	外国人防災リーダー研修受講者数	受講者累計人数30人	31人	計画通り進めている
		◆地域、企業等における防災教室・防災訓練の実施		エクセディ	避難訓練や消火訓練の実施	・避難訓練や消火訓練の実施	・避難訓練 2024/3/11実施予定 消火訓練 2023/11/7実施済 普通救命講習 2023/8/24実施済				—	計画通り進めている
				社会福祉協議会	伊賀市災害ボランティアセンター設置訓練〈災害VC〉	今年度は、訓練という形ではなく伊賀市災害VC運営マニュアルの作成研修として実施。	令和6年能登半島地震の発災により、設置訓練ではなく被災地応援職員の報告会と伊賀市災害VCのマニュアル作成研修という形での開催に変更。今回の研修では社協職員と災害VC運営委員を対象とすることになり、設置訓練は次年度以降の開催となった。	a：数値把握	災害ボランティアセンター設置(運営)訓練への外国人防災リーダー参加者数	参加者9人	—	その他
	1-A-(2) 外国人住民の高齢化への対応	① 情報発信の充実	◆多言語と「やさしい日本語」による福祉情報の充実	障がい福祉課	障害福祉サービスから介護サービス移行対象者への情報提供（やさしい日本語・多言語）	R5年度については対象者がいませんでした。	障害福祉サービスから介護サービスへの移行について支援者とともにわかりやすく説明し、老後への不安をなくします。	b：取組実績把握			—	その他
				介護高齢福祉課	外国人被保険者へ通知を送付する際、やさしい日本語を使用しルビを入れたものを同封する。 介護保険料の払い忘れなど早期対応が必要なものについては、上記に加え、ポルトガル語・スペイン語・中国語対応の翻訳文を同封する。	65歳年齢到達による被保険者証送付の際、やさしい日本語でルビを入れた通知文書を同封した。また、個別対応文書の送付の際、翻訳を依頼し専門用語が正しく伝わるよう対応した。	日本の制度を理解してもらおう上で、やさしい日本語の活用や翻訳により専門的な文言の意味を正しく伝えられていると考える。	a：数値把握	通知件数	36件	36件	計画通り進めている
				地域包括支援センター	必要に応じて通訳者を介し、サービスや制度の説明を行う。	必要に応じて通訳者を介し、サービスや制度の説明を適宜行った。	通訳を介することで本人に適切な制度理解に繋がった。	d：把握困難			—	計画通り進めている
				保険年金課	窓口で説明する際には、外国語版パンフレットを活用するとともに、「やさしい日本語」を使う。	情報をわかりやすく提供するため、下記の取組を行った。 ・やさしい日本語を活用した説明 ・通訳者を介しての対応・説明。通訳者が不在の場合はタブレット端末を活用し説明。 ・翻訳パンフレットの設置 ・手続の案内文書等に翻訳文の同封や漢字にルビをふるなどの工夫。	やさしい日本語の使用や通訳・翻訳での説明をすることにより、情報の内容を理解しやすくなった。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている
			◆外国人向けライフステージ・ライフサイクルに応じたセミナーの開催	エクセディ	ライフサポートセミナーの開催（50歳以上の従業員で希望者）	・ライフサポートセミナーの開催（50歳以上の従業員で希望者） …パートナーも参加可	・2024/2/10（土）実施予定				—	計画通り進めている
				伊賀の伝丸	セミナー開催時の通訳派遣						—	
			◆社会福祉法人等との連携強化								—	
		② 相談体制の充実	◆通訳兼相談員の拡充	多文化共生課	多文化共生相談員を継続雇用します。	外国人受入環境整備交付金などを活用し、多文化共生相談員7名を継続雇用しました。	今後も交付金を活用するなどして、相談員の継続雇用に努めます。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている

展開 方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2023(R5)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	2023（R5）実施事業の進捗状況・実績									
						事業の実施内容	事業の効果・課題・改善案	タイプ※	指標名	見込値	実績値	進捗状況			
			◆窓口等における対応力の向上 （「やさしい日本語」の習得や ケースの共有など）	多文化共生課	窓口における相談等の対応力向上のため、定例会などの 機会に相談ケースの共有や研修を実施します。	定例会で相談ケースの共有や検討を行い、相談員の 対応力向上を図りました。	国籍や在留資格によって相談内容が異なるため、今 後も情報共有や研修を行いながら、相談員の対応力 向上を図ります。	a：数値 把握	研修会の実施	1回	1回	計画通り進め ている			
				社会福祉協議会	なんでも相談（おあいこ業務：生活困窮、自立相談、就 労準備、家計相談等）〈市社協〉	電話、対面、アウトリーチ、メール等による相談援助 業務。各関係機関への同行による支援。ひきこも りの居場所支援、ひきこもりサポーター養成、活 用、家族支援。居住支援法人。地域啓発にも力をい れている。相談に関しては、ポケットークの活用や職 員によるやさしい日本語での対応も取り入れている。	母語による説明が必要な場面も多く、通訳が同行で きる仕組みづくりなど、相談体制の構築が必要。				—	やや遅れてい る			
			◆関係機関における情報・課題共 有の場づくり								—				
		③ 福祉人材の育成	◆外国人の福祉人材の育成	医療福祉政策課	福祉教育プログラムに基づいた取り組みについてさらなる 推進を図り、福祉人材の養成に努めます。	住民自治協議会、自治会、サロン、小中学校、高等 学校で福祉教育プログラムに基づいた講座を実施し ました。	福祉人材の養成につながる福祉教育プログラムの一層 の充実が必要です。	b：取組 実績把握				—	計画通り進め ている		
				介護高齢福祉課	外国人の会計年度職員を雇用し、雇用期間中に制度の内容 を習得することで、初期対応の時点で趣旨を捉え、ス ムーズに対応できるようにする。	R5.4月～会計年度任用職員（中国語）として1人雇 用。	来庁する外国人も国籍が様々であり、すべての対応を 行うには1人の雇用では事足らないが、馴染みのない 日本の制度に対する相談者への理解や、やさしい日 本語での対応ができる面については効果があると考え る。	a：数値 把握	雇用人数	1人	1人	完了			
				伊賀の伝丸	福祉施設へ日本語講座の提供	EPA介護福祉士候補者だけでなく、特定技能スタッ フ（介護）への講座も開始。	資格取得と合わせ施設内のコミュニケーションと学 習者の孤立を防ぐ講座となっている。					—			
		◆外国人材の採用促進									—				
	1-A- (3)	地域における生 活支援の充実	① 生活オリエン テーションの充実	◆生活オリエンテーションやセミ ナーの実施	多文化共生課	転入外国人に対する生活オリエンテーションを実施しま す。	自治会からの相談を受け、転入外国人に対し、ごみ の出し方や自治会の決まりなどの説明を行いました。 。	外国人住民が転入時に分からないことを相談できる よう、住民課や各支所と連携して転入時に相談窓口の 周知を行います。	b：取組 実績把握				—	やや遅れてい る	
					伊賀の伝丸	多言語生活相談	常時予約がなくても訪問者には対応できる体制を整 え実施。	通訳が常駐していないので、必要があれば翻訳アプリ の使用、または電話通訳を利用。					—		
					国際交流協会	多文化共生センター窓口の補完事業として軽微な相談活 動及び関係機関等への取次	来所者の軽微な相談への対応、関係機関等への取次 を実施した。	継続して実施する。					—	計画通り進め ている	
					社会福祉協議会	日常生活の相談活動〈市社協〉 日常生活の相談活動〈民児連〉	市内全域で相談（アウトリーチ支援）ができる体制 をとっている。また民生委員児童委員定例会にも出 席している。外国人住民の相談にも対応している。	エリアごとに担当コーディネーターを配置することで 外国人住民も相談しやすい体制が取れている。外国人 住民へ事業周知方法を検討する必要がある。					—	計画通り進め ている	
					◆生活ガイドブックの発行	多文化共生課	身近な人が外国人住民とコミュニケーションを図りなが ら基本的な生活について説明できるよう伊賀市版多言語 生活ガイドブックを作成します。	内容について専門部会等で検討し、「伊賀市でくら す外国人のための生活ガイドブック」を作成しまし た。	ガイドブックを広く活用してもらうため、ガイドブック の周知を図ります。	b：取組 実績把握				—	完了
					② 地域における良 好な関係づくり	◆地域等における「まとめ役」と なる人材の育成	多文化共生課	地域等の研修会や出前講座を実施し、多文化共生に関す る理解を深めるよう努めます。	団体等の依頼を受けて、出前講座を実施しました。 （4回）	地域で多文化共生に取り組もうとする活動が広がって きました。継続して出前講座を実施し、多文化共生の 理解促進に努めます。	b：取組 実績把握				—
	1-A- (4)	生活困窮等対策 の充実	① 生活困窮等の対策の充実	◆生活困窮等にかかる相談窓口の 周知	生活支援課	外国人支援に関わる団体などに生活困窮者自立支援制度 の周知啓発を行う。	市HPや広報いがなどで自立支援制度の普及啓発を 行う。また、生活困窮者支援団体活動費補助金説明 会などで事業説明を行う。	事業説明会で集まった参加者から案内先が分かり良 かったとの声をもらった。相談窓口を広く周知する にあたり、市HPや広報誌以外での普及啓発の方法を 検討する必要がある。	b：取組 実績把握				—	計画通り進め ている	
					伊賀の伝丸	多言語生活相談の周知	SNS、パンフレット、などを通じて周知。通りに面 した事務所なので、ふらっと立ち寄り、相談、とい う事例もある。	またアジア圏の在住外国人の相談先として口コミで広 がっている。					—		
					社会福祉協議会	なんでも相談（おあいこ業務：生活困窮、自立相談、就 労準備、家計相談等）〈市社協〉	おあいこのチラシを多言語で作成し、相談窓口を周 知できるよう取り組んでいる。	必要な場所に情報が届いていない現状がある。様々 な媒体を活用し、関係機関と連携しながら周知してい く。					—	やや遅れてい る	
					◆窓口における対応力の向上 （「やさしい日本語」の習得や ケースの共有など）	多文化共生課	（再掲）窓口における相談等の対応力向上のため、定例 会などの機会に相談ケースの共有や研修を実施します。	定例会で相談ケースの共有や検討を行い、相談員の 対応力向上を図りました。	（再掲）国籍や在留資格によって相談内容が異なる ため、今後も情報共有や研修を行いながら、相談員の 対応力向上を図ります。	a：数値 把握	（再掲）研修会の実施	1回	1回	計画通り進め ている	
					伊賀の伝丸	関係機関とのケース会議	必要に応じて、生活支援課、障害者相談支援セン ター、社会福祉協議会などとケース検討をしている	相談員に限られており、新たな相談員の養成などは難 しいことが大きな課題。					—		

展開 方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2023(R5)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	2023（R5）実施事業の進捗状況・実績							
						事業の実施内容	事業の効果・課題・改善案	タイプ※	指標名	見込値	実績値	進捗状況	
	1-B-(1)	さまざまな相談に対する支援の充実	① 福祉・生活ニーズの把握	－	多文化共生課	（再掲）外国人住民アンケート調査の継続実施、また、平時の相談業務からニーズ・困りごとなどの把握に努めます。	（再掲）外国人住民アンケートを実施しました。（回答数：247人）相談内容を課内で情報共有し、必要な支援が受けられるよう関係課と連携を図りました。	（再掲）国際交流フェスタの会場でアンケートを実施したことで、多くの住民の声を聞くことができました。課内の情報共有をしっかりとすることで、表面的な困りごと以外にほかの問題を把握し、担当課へ繋がれたケースがありました。	b：取組実績把握			－	計画通り進めている
					医療福祉政策課	福祉ニーズを把握するために、毎年地域を決めて地域福祉ネットワーク会議単位でアンケートを実施しております。また、地域福祉コーディネーターが地域支援の一環で把握している地域アセスメントについても引き続き把握を行います。	地域でのアンケートを1地域で実施しました。また、地域アセスメントを市内39地域で実施しデータを更新しました。	アンケートの結果、また地域アセスメントの内容を地域福祉ネットワーク会議などでフィードバックし、地域での自主的な活動により活用していただくことが必要です。	b：取組実績把握			－	計画通り進めている
					障がい福祉課	窓口対応等の支援（やさしい日本語・多言語）	やさしい日本語、通訳者による通訳とともに、三者間通話（5回）やテレビ電話（2回）を利用して窓口対応を行いました。また、窓口が多言語にも対応した「透明字幕表示ディスプレイ」の設置を検討しました。	通信環境が悪く、会話が聞き取れないことがありました。職員が機器の操作に慣れることが必要です。字幕表示については、簡潔で分かりやすく話を組み立てる会話スキルが必要です。	b：取組実績把握			－	計画通り進めている
					生活支援課	経済的困窮だけにとどまらず、ひきこもりなど社会的孤立など幅広い相談に対応する。外国人が抱える問題に寄り添いながら関係機関と連携し自立に向けた支援を提供する。	経済的困窮だけにとどまらず、ひきこもりなど社会的孤立など幅広い相談に対応する。継続的な支援が必要な方に本人の意向を尊重した支援プランを作成し、プランに基づき関係機関と連携し寄り添いながら自立に向けた支援を提供する。	新型コロナウイルス感染症の影響に加え、物価上昇による経済的困窮から相談に至ることが多い。また経済的困窮の有無にかかわらず、孤独・孤立から中長期的に包括的・継続的な支援が必要なケースの割合が増加している。	a：数値把握	外国人からの新規相談件数	60件	47件 (R5.12月末時点)	計画通り進めている
					介護高齢福祉課	今後、外国人相談者がますます増加することを見込み、多文化共生課や地域包括支援センターと連携・情報共有しながら、効果的な制度の周知方法を検討する。	窓口対応で通訳が必要と判断した場合は、多文化共生課への協力を依頼し対応している。相談内容によっては、連携先の職員も交えての対応を行っている。	通訳、タブレット、やさしい日本語の活用により、相談に対し、制度の理解を得られている。	b：取組実績把握			－	計画通り進めている
					保険年金課	窓口で医療保険や国民年金の相談を通じて、生活に支援が必要であると思われる場合には、関係する部署につなげる。	窓口での応対時に支援が必要と感じられた場合には、関連部署へつなぐようにし、場合によっては通訳者が同行した。	通訳者との会話で支援が必要と分かることがあった。	c：その他			－	計画通り進めている
					健康推進課	母子健康手帳の外国語版の交付、予防接種予診票の翻訳等をすすめてきているところですが、各種案内文等対応できていない文書の翻訳をすすめていきます。	母子健康手帳の外国版交付、予防接種予診票翻訳版、各種案内や申請書の外国版の作成を進めていきます。	ベトナム語・中国語・英語・ポルトガル語・スペイン語の5か国について、母子手帳、予防接種予診票の他案内文等進めています。利用者の声を聞きながら新たに必要な文書等翻訳を作成していきます。	b：取組実績把握			－	計画通り進めている
		② 相談・支援窓口における対応力の向上	－	多文化共生課	相談員への研修を実施する。	入管庁主催のオンライン研修等を受講し、相談員の対応力の向上を図りました。	今後も情報共有や研修を行いながら、相談員の対応力向上を図ります。	a：数値把握	相談員研修の実施	1回	1回	やや遅れている	
				医療福祉政策課	高齢・障がい・子ども・生活困窮といった分野にかかる相談支援を一体的に行う重層的支援体制整備事業について、引き続き取り組みの推進を図ります。	重層的支援体制整備事業実施計画に基づき、取り組みを推進しました。	多言語による相談窓口と福祉に関する相談機関がより連携を深める必要があります。	b：取組実績把握			－	計画通り進めている	
				障がい福祉課	窓口で使用する申請書類の支援及び各種お知らせ等の情報提供（やさしい日本語・多言語）	使用頻度が高い書類については、英語版、ポルトガル語版等を用意しています。申請書記入に関しては、必須記入箇所に○をつけたリ、メモを添えるなどしてわかりやすく案内しました。	申請書は種類が多く複雑な内容もあることから、使用頻度の高いものなど優先度を決めて、順次やさしい日本語、多言語の対応をしていきます。	b：取組実績把握			－	計画通り進めている	
				生活支援課	生活保護、生活困窮者自立支援の相談支援において多文化共生課の通訳の協力を得て、面談や文書の翻訳を行う。	通訳者の同席やタブレット端末を使った通訳など、外国籍の方に理解しやすい相談支援に努める。	通訳者が不在の際はタブレット端末を使った通訳を行い、理解しやすい相談支援に努めた。また、電話対応において3者間通話を行うのなど、多文化共生課の通訳以外での通訳方法にも取り組めた。	c：その他			－	計画通り進めている	
				介護高齢福祉課	今後、外国人相談者がますます増加することを見込み、職員の「やさしい日本語」の習得や、対応をスムーズに行う手段（翻訳機器等）の使用等の検討を行う。外国人支援に関する研修やセミナー等積極的に参加し、課内で情報共有し、可能なことは順次実践していく。	多文化共生課主催の「やさしい日本語教室」へ参加し、参加時の資料を供覧して課内で情報共有した。	窓口や電話での外国人からの問合せに対し、介護保険制度の理解を得るための対応方法として活用することができた。開催日に参加できない職員にも情報共有し、出来ることから実践できるよう意識付けを行った。	a：数値把握	研修やセミナーへの参加・共有回数	1回	1回	完了	
				保険年金課	通訳員を雇用するとともに、対応できない言語については翻訳タブレットを活用する。	ポルトガル語の通訳を雇用し、窓口での説明や、手紙の翻訳を行った。通訳者が対応できない場合は、翻訳タブレットを活用した。	通訳員の雇用により、窓口業務に加え発送文書の翻訳や、電話応対等を行うことができた。	b：取組実績把握			－	計画通り進めている	
				健康推進課	訪問や相談対応時に通訳者の依頼や翻訳機等を利用して、相談や支援をします。	家庭訪問や面談相談等、通訳者の依頼をすると共にタブレットや翻訳機利用にて、分かりやすい相談や支援をします。	対面による通訳が一番効果的ですが、庁舎外や急遽対応時は、タブレットや翻訳機を使用して、的確に安心できる相談支援が求められます。	b：取組実績把握			－	計画通り進めている	
				伊賀の伝丸	外国人の現状や困りごとから相談対応のための講座 講師派遣 相談者のためのやさしい日本語講座 講師派遣 相談時の通訳派遣	外国人ヘルプライン東海の通訳研修、相談員研修会に参加している	相談担当者は多忙なため、研修会には半分ほどしか参加できない				－		

展開 方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2023(R5)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	2023（R5）実施事業の進捗状況・実績						
						事業の実施内容	事業の効果・課題・改善案	タイプ※	指標名	見込値	実績値	進捗状況
	1 - C - (1) 就労と居住に関する支援の充実	① 就労支援の充実	－	多文化共生課	就労に関する情報発信など、商工労働課と連携して行います。	雇用・労働に関する相談を多言語で聴取し、問題解決のため関係機関と連携を図りました。	相談事業連絡調整会議の事案として関係機関が情報共有し、就労に繋げることができました。今後も関係機関と連携し、よりよい支援に繋げることが必要です。	b：取組実績把握			—	やや遅れている
				商工労働課	多文化共生センターや通訳兼相談員などと連携しながら就労相談などを行う 人権啓発企業訪問の際に外国人雇用があるか確認の上、言葉や文化に対する取り組みを行っているか実態把握し、取り組みがないなら取り組むよう検討を促す	職業相談員による職業相談を実施するとともに、人権啓発企業訪問において外国人の雇用等に関する啓発を行います。	令和5年12月31日現在、137回の職業相談を実施し、210の企業・事業所に対して訪問等による啓発を実施しました。	b：取組実績把握			—	
		② 居住支援の充実	－	多文化共生課	住居に関する情報発信など、住宅課と連携して行います。	市営住宅入居者募集について、案内等を翻訳したほか、多言語情報紙でも情報発信を行いました。	住宅課と連携し、住居に困窮している外国人住民に必要な情報を届けることができました。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている
				住宅課	賃貸住宅相談会の開催及び外国語通訳者の配置 安心住まい情報等の多言語版情報誌の設置 市営住宅募集にかかる多言語版の案内及び通訳者の確保	安心住まい情報等の多言語版情報誌の設置 市営住宅募集にかかる多言語版の案内及び通訳者の確保	賃貸住宅相談会は内部調整のため今年度は実施しませんでした。次年度は実施予定です。 市営住宅募集に関しては年2回の募集で外国人計5世帯から申込がありました。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている
				伊賀の伝丸	居住支援相談会への通訳派遣	本年度は居住支援の外国人の相談がなかった。					—	
	1 - C - (2) 外国人差別への対応	① 外国人差別に対する相談と救済の実施	－	人権政策課	人権相談窓口における外国人差別に対する相談と救済の実施	外国人差別に関する相談について問題解決と当事者の救済に取り組みました。	外国人住民の生活相談事例から、それが差別であると見抜ける能力が必要となる。相談員の人権研修参加を促しました。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている
				多文化共生課	外国人差別に対する相談について、問題解決と当事者の救済に人権政策課と連携し取り組みます。	外国人差別に関する相談について、人権政策課と連携し当事者の救済に取り組みました。	外国人住民の生活相談事例から、それが差別であると見抜く能力が必要であることから、人権研修に参加し相談員の人権意識を高めます。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている
				伊賀の伝丸	多言語生活相談	あからさな差別に関する相談はなかったが、不当解雇などの相談は数件あった。	当事者は困ってはいても、それが差別事象である認識はしていないことが多い。啓発が必要と思われる				—	

伊賀市多文化共生推進プラン（第1期）進捗管理シート

展開 方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2023(R5)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	2023（R5）実施事業の進捗状況・実績								
						事業の内容	事業の効果・課題・改善案	タイプ※	指標名	見込値(2023)	実績値	進捗状況		
2 教育・子育てしやすい地域づくり														
2-A-(1) 子育て情報の充 実	① 情報発信の充実	◆多様なツールを活かした情報発信	多文化共生課	多言語情報紙及び多文化共生センターfacebook等を活用した生活情報を提供します。（多言語・やさしい日本語）	広報「いが」の中から子育て情報を抜粋し、多言語情報紙で情報発信しました。（月1回）多文化共生センターイベントの開催案内や実施内容をfacebookで発信しました。	各子育て支援センターで実施しているイベントについても担当課と連携し多言語で情報発信していく必要があります。	b：取組実績把握				—	やや遅れている		
				こども未来課 (子育て支援室)	子育て支援に関する市の施策を一冊にまとめた「伊賀流未来応援の術」をもって、市民に対し分かりやすい情報提供を行う。また毎月開催される子育て支援センターの事業を市広報、ホームページ、通信等で情報提供する。	子育て支援センターが発行する通信を、協力が得られる民間施設等への月1回配布、ホームページでも情報提供した。	普段子育て支援センターを利用していない子育て世帯への情報提供に努めた。	b：取組実績把握				—	計画通り進めている	
				健康推進課	子育て事業等、翻訳機やSNS等を利用して案内や子育て情報を提供します。	子育て情報等、案内や勧奨等翻訳機やSNSを通じて情報発信します。	翻訳機やSNS以外に、利用者の声を聞きながら必要時には外国語版等状況に応じて作成します。	b：取組実績把握					—	計画通り進めている
				保育幼稚園課	・窓口に（2か国語）通訳の配置。 ・公立2園には主にポルトガル語通訳が可能な保育補助の配置。 ・通訳者の不在時、または通訳者が対応出来ない言語の場合は、タブレット端末を利用した多言語通訳システムにより対応	・窓口に（2か国語）通訳の配置。 ・公立2園には主にポルトガル語通訳が可能な保育補助の配置。 ・通訳者の不在時、または通訳者が対応出来ない言語の場合は、タブレット端末（ポケットーク）を利用した多言語通訳システムにより対応	・通訳の勤務時間内は窓口、電話対応している。 ・公立2園には主にポルトガル語通訳が可能な保育補助の配置している。 ・全施設に通訳端末（ポケットーク）を配置することで、通訳者不在時間、通訳者が対応出来ない言語の場合の対応をしている。	b：取組実績把握					—	計画通り進めている
					学校教育課	児童生徒や保護者が学校生活等に関する連絡や相談等について、母語で意思疎通できるよう電話通訳等による対応を行う。また、県の外国人児童生徒巡回相談員やNPO法人を活用する。	県の外国人児童生徒巡回相談員やNPO法人を活用し、通訳者派遣や翻訳について学校からの要請に対応する。また、タブレットを上野東小学校、上野西小学校、学校教育課に配置し、電話通訳等が必要な学校へ貸し出す。	通訳者派遣や翻訳について学校からの要請に対応し、学校と子ども、保護者とのつながりを支援することができた。タブレットによる電話通訳の利便性を十分に周知しきれておらず、今後、広く浸透させていくことが課題である。	d：把握困難					—
				伊賀の伝丸	SNSを活用した多言語やさしい日本語での情報発信	県、市、他NPOの情報共有 伝丸主催のイベントでの情報発信	つたまるマルシェなどの機会に、子育て世帯へのアプローチの入り口を作ることができた						—	
		◆子育てセミナー・交流会の開催	医療福祉政策課	高齢・障がい・子ども・生活困窮といった分野にかかる地域づくり支援を一体的に行う重層的支援体制整備事業について、引き続き取り組みの推進を図ります。	重層的支援体制整備事業実施計画に基づき、取り組みを推進しました。	多言語による相談窓口と福祉に関する相談機関がより連携を深める必要があります。	b：取組実績把握					—	計画通り進めている	
				こども未来課 (子育て支援室)	子育て世代の家族みんなで楽しく人権感覚を養うことでワーク・ライフ・バランスの実現につなげる。 子育てに役立つ話、親子ふれあい遊び等実施し親子の交流を深める。 ファミリースマイルアップ講座の開催（男女共同参画センター、文化都市協会、子育て支援室主催） お話の会、公開講座の開催（子育て包括支援センター）	人権擁護委員さんの紙しばいと、簡単なもの作りを通して子どもたちの感性や創造力を育む内容のファミリースマイルアップ講座を開催した。	家族みんなで子育てする意義や楽しさを学び家庭内の子育ての向上を図った。	b：取組実績把握					—	計画通り進めている
					健康推進課	妊娠期～子育て期における教室や相談事業(妊婦教室・乳幼児相談・離乳食教室等)にて、通訳者の依頼や翻訳機などを利用して、相談や支援をします。	安心して妊娠期～子育て期を迎えられるよう、通訳者の依頼や翻訳機利用して妊産婦に寄り添った支援をします。	相談・教室参加者の中で要望があった場合は通訳者の依頼をしますが、困難な場合もあります。その場合翻訳機を利用して個別に分かりやすい内容で対応していきます。	b：取組実績把握					—
				伊賀の伝丸	子育てセミナーや交流会への通訳派遣	今年度通訳派遣の依頼はなかった。当団体の教育相談では通訳を配置した。							—	
				社会福祉協議会	外国人住民交流支援事業（国際交流フェスタの会場内にて缶バッジを販売し、伊賀市内の福祉活動を啓発）	缶バッジ販売を実施し、伊賀市内で取り組む福祉活動の啓発。外国人住民へのヒアリングを実施。	国際交流フェスタへ参加することで外国人住民への防災意識の向上、啓発につながった。外国人住民のヒアリング結果を分析し、新たな事業開発を進めていく。	b：取組実績把握					—	計画通り進めている
					② 相談体制の充実	◆通訳兼相談員の拡充	多文化共生課	（再掲）多文化共生相談員を継続雇用します。	（再掲）外国人受入環境整備交付金などを活用し、多文化共生相談員7名を継続雇用しました。	（再掲）今後も交付金を活用するなどして、相談員の継続雇用に努めます。	b：取組実績把握			
		◆窓口における対応力の向上 （「やさしい日本語」の習得や相談ケースの共有など）	伊賀の伝丸	外国人の現状や困りごとから相談対応のための講座 講師派遣 相談者のためのやさしい日本語講座 講師派遣 相談時の通訳派遣		スタッフで相談内容を共有し、担当者が不在の場合も対応できるように体制を整えている	時間差でスタッフ間での連携が出来ないこともある						—	
		◆支援が必要な子どもの早期発見	伊賀の伝丸	伝：相談者へのアウトリーチ		気になる状況を確認した折は、あらゆる可能性（家庭内暴力や、発達障害の可能性など）を考慮して慎重に対応し、その後の様子を確認するようにしている。	保護者が連絡を絶ってしまうと、つながらない案件がある。気になるがどこまで深追いつるか。悩ましい。						—	
	◆関係機関における情報・課題共有の場づくり	伊賀の伝丸	伝：ケース会議への参画									—		

展開 方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2023(R5)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	2023（R5）実施事業の進捗状況・実績						
						事業の内容	事業の効果・課題・改善案	タイプ※	指標名	見込値(2023)	実績値	進捗状況
	2-A-(2) 子ども・若者の居場所づくり	① 子ども・若者の居場所づくり	◆地域における子ども・若者の居場所づくりに関する取組の推進	こども未来課	関係各課と連携し、こどもの居場所づくりについて協議を行う。	関係各課と連携し、こどもの居場所づくりについて協議を行った。	令和5年12月にこどもの居場所づくりに関する指針が国において示された。今後、その指針に基づいて、各所属で取り組んでいくこととなった。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている
				生涯学習課	小学生を対象として、放課後や長期休暇中の活動拠点（居場所）を提供します。	小学生を対象として、安心・安全な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子ども達と共に勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の取り組みを推進します。	新型コロナウイルス感染症のまん延も収束し、定期的な活動を実施しました。また、令和6年度に1教室が新設される予定のため準備を行っています。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている
				社会福祉協議会	地域食堂連絡会を基にした伊賀市内の地域食堂（こども食堂）の推進。	外国人住民も含む地域住民（子ども）が身近な居場所として参加できる地域食堂（子ども食堂）の運営、立ち上げ支援を行っている。	地域食堂間の情報共有・発信の場として連絡会を設置。地域食堂には地域の外国人住民もたくさん参加している。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている
				国際交流協会	日本のあそび、伝統文化などの紹介	・国際交流フェスタで昔のあそびブースを出展する ・漢字学習支援教室では七夕飾りや、夏休み期間中には芭蕉祭の子どもの部俳句選者を講師に迎え俳句学習を行った。	・国際交流フェスタの昔のあそびブースには、多くの子ども達が遊んでいた。 ・本年度は、漢字学習支援教室の子ども達だけを対象としたが、次年度は対象者を拡げる方向で考えている。 ・漢字学習支援教室では、季節毎の日本の伝統文化に触れる機会を設ける。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている
				伊賀の伝丸	若者支援（悩み相談、受診支援、就職支援） 学習支援教室ささゆりの運営実施（受託）	ささゆり教室では学習はもちろん、月1回のゲーム会や気になる子には面談を行っている。 白鳳高校図書館に月一回、多文化担当として講師派遣	生徒はどんどん増えているが、ボランティア先生が不足気味。新人先生研修も増やしてい対応しているが、25名以上は対応が難しい。 白鳳高校では初の試み。今後の継続が未定				—	
	2-B-(1) 児童生徒一人ひとりに合った教育の推進	①「特別的教育課程」による指導の推進	—	伊賀の伝丸	つたまる個別学習支援	義務教育年齢を過ぎた生徒、または初期適応クラスに入るまでのアプローチとして日本語教育基礎の提供。	2023年度実績6人。つたまるでの日本語学習のあとは中学校、またはオンラインスクールへとつないだ。				—	
	2-B-(2) 子育て支援に関する相談の充実	① 発達支援に関する相談体制の充実	—	こども未来課 (子育て支援室)	多言語での通訳・翻訳を受けられる体制づくり	子どもに合った支援が受けられるように、外国語を母国語とする児童への検査時の通訳や、保護者へのわかりやすい丁寧な説明をしました。	就学に関する内容が多いため、保護者に理解してもらうためにオンラインより対面の方が質問などしやすく安心してもらえた。また多言語化しており通訳できない言語も増えてきたのが課題である。	c：その他	多言語化の対応	20回	17回	計画通り進めている
				伊賀の伝丸	発達検査などのへの通訳派遣	発達検査などのへの通訳派遣。またその後の相談フォローなど。	発達検査の通訳としての仲介することが非常に難しい。通訳者の研修も実施したいが追いついていない。				—	
	2-C-(1) 日本語指導、進学指導の充実	① 日本語学習指導の充実	—	学校教育課	各校に日本語指導コーディネーターを派遣し、日本語指導担当者に対する指導や日本語能力測定方法等の研修などを実施するとともに、外国人児童生徒教育の担当者を対象に研修を実施する。	外国人児童生徒教育コーディネーターである船見和秀先生を小中学校へ派遣し、日本語指導担当者に対する指導や日本語能力測定方法等の研修、個別の測定のサポートを行い、受入体制の整備につなげる。また、船見先生を講師として、市内全小中学校の外国人児童生徒教育（日本語指導教育）の担当者を対象に日本語指導者研修会を行う。 （1）第1回研修会（5月15日） ・講義「『特別的教育課程』の背景～アフターコロナをふまえて」 （2）第2回研修会（8月17日） ・講義「『やさしい日本語』で教科書を教えるには」 ・グループワーク	外国人児童生徒教育コーディネーターを派遣することにより、小中学校の指導体制や日本語指導等の課題に応えることができた。また、児童生徒の日本語能力に合わせて、適切な教材の紹介やその活用等、必要な情報を提供することができた。 研修会では、児童生徒の多様な背景をつかみ、長期的な将来ビジョンを把握したうえでの取り組みを進めていくことの重要性を学ぶことができた。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている
				伊賀の伝丸	つたまる個別学習支援 学習支援教室ささゆりの運営実施（受託）	個別学習支援は2-B-(1)に記述のとおり。 学習支援教室ささゆりの運営実施	ささゆり指導者のためのセミナー、懇親会などを実施し、オールスタッフで支援できる体制作り。				—	
		② 進学に関する支援の充実	—	学校教育課	市内すべての中学校において、高校進学等に向けた進路指導・キャリア教育を実施する。また、外国にルートをもつ児童生徒とその保護者を対象に進路ガイダンスを開催し、高校入試や進学後の費用等について説明する。	つたまるで日本語指導後、オンラインでの日本語学習、教科学習へつなげる。 学習支援教室ささゆりの運営実施	パンフレットを活用して、日本の学校教育等の説明をスムーズに進めることができた。現在、ポルトガル語・スペイン語・中国語・タガログ語・ビシヤ語・英語・日本語の7言語のパンフレットで対応しているが、ベトナム語・タイ語も必要である。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている
				伊賀の伝丸	若者支援（既卒の進学支援） 学習支援教室ささゆりの運営実施（受託）	個別学習支援は2-B-(1)に記述のとおり。 学習支援教室ささゆりの運営実施	YSCグローバルスクールで学習を続けることができているのは2023年度は3人。来年度は当該スクールの助成金がなくなるため、受講は有料になる。				—	

展開 方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2023(R5)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	2023（R5）実施事業の進捗状況・実績						
						事業の内容	事業の効果・課題・改善案	タイプ※	指標名	見込値(2023)	実績値	進捗状況
	2 - C -(2) 就学に関する情報提供の充実	① 就学に関する情報提供の充実	－	学校教育課	多言語版の就学パンフレットを用いて、日本の学校教育や就学の手続き、学校生活等の説明を行う。	つたまるで日本語指導後、オンラインでの日本語学習、教科学習へつなげる。 学習支援教室ささゆりの運営実施	小中学生72名と保護者79名が参加した。 参加者からは、「とても役に立った」「とてもわかりやすく、自分が何をすべきか考えることができた」等の感想が寄せられ、それぞれの進路に向けて、貴重な機会となったことが感じられた。 参加者及び希望者には言語別（ポルトガル語、スペイン語、中国語、英語、タイ語、フィリピン語、日本語）の「高校進学ガイドブック2023」を配付した。「翻訳されていて、多くの疑問が解消され助かった」等の感想があった。 今後も社会情勢や参加者のニーズに応じて運営に工夫を重ね、児童生徒の進路保障に取り組む。	c：その他			－	計画通り進めている
		② 未就学児童への対応	－	学校教育課	住民課と連携し、住民登録の際には教育委員会にも来ていただくよう依頼する。万一、未就学の児童生徒を把握した際には、家庭訪問のうえ就学を促す。外国人学校へ通学している場合も、在籍証明書の提出を依頼する。	住民課と連携し、住民登録の際には教育委員会にも来ていただくよう依頼する。万一、未就学の児童生徒を把握した際には、家庭訪問のうえ就学を促す。外国人学校へ通学している場合も、在籍証明書の提出を依頼する。	今後も住民課との連携をより一層強化し、外国人児童生徒の就学状況を把握し、就学促進を図る。	c：その他			－	計画通り進めている

伊賀市多文化共生推進プラン（第1期）進捗管理シート

展開 方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2023(R5)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	2023（R5）実施事業の進捗状況・実績						
						事業の内容	事業の効果・課題・改善案	タイプ※	指標名	見込値 (2023)	実績値	進捗状況
3 国籍を越えた交流による地域づくり												
3-A-(1) 「やさしい日本語」の普及	① 「やさしい日本語」の普及	◆行政職員向け「やさしい日本語」の研修実施・普及	人事課	職員が積極的に受講できるよう、研修の体制づくりについて多文化共生課と調整を行う。	次年度に多文化共生に関する研修を新採研修に取り入れる検討など、多文化共生課と調整している。	各所属における業務、研修がある中で、どのような形での実施方法が適当か引き続き検討していく。	b：取組実績把握			—	計画通り進めている	
				多文化共生課	職員向け「やさしい日本語」研修会を行います。	市職員を対象とした「やさしい日本語」研修を実施しました。（参加者28名）	市の通訳相談員にも参加してもらい、実際にどんな説明が分かりやすいかを確認してもらうことができました。	a：数値把握	研修会の実施	1回	1回	計画通り進めている
				伊賀の伝丸	やさしい日本語講座への講師派遣	災害時にも役立つやさしい日本語講座担当	やさしい日本語を教えるだけでなく、他国の文化紹介、人との交流なども伝える。	a：数値把握	やさしい日本語講座参加者合計数	500人	—	
		◆地域や企業等での「やさしい日本語」に関する取組の推進・普及	多文化共生課	地域や企業等で研修会や周知など行い、「やさしい日本語」の推進・普及に努めます。	国際交流協会に事業委託し、「やさしい日本語」の普及に努めました。 生涯学習支援員を対象とした研修や、地域の出前講座で「やさしい日本語」の普及啓発に取り組みました。	生涯学習支援員を対象とした研修で、各地域での「やさしい日本語」研修や出前講座の実施を依頼したが、実際に取り組みがあったのは1地区のみでした。 今後も継続して普及啓発に取り組みます。	a：数値把握	研修受講者数	40人	45人	計画通り進めている	
			社会福祉協議会	外国人防災リーダー育成事業「やさしい日本語」の普及（伊賀市地域活動支援事業_協働促進支援コースを活用）	市民向けに災害時を想定したやさしい日本語講座を実施予定。	民生児童委員、自治協関係者（防災部会等）、伊賀市災害VC運営スタッフなど、災害時に役割を担う可能性がある方を中心に啓発。避難所運営等の際に活用できるスキル習得に向けた取り組みとして、継続的な実施が必要。	a：数値把握	外国人防災リーダー研修受講者数	累計30人	31人	計画通り進めている	
			伊賀の伝丸	やさしい日本語講座の実施、講師派遣	災害時にも役立つやさしい日本語講座担当	避難所受付のワークでやさしい日本語の 日宇養成 を実感してもらえた。						
			伊賀日本語の会	伊賀日本語の会30周年記念事業講演会「ひろげよう！やさしい日本語」の実施	伊賀日本語の会30周年記念事業講演会「ひろげよう！やさしい日本語」を12月10日（日）に開催。 一般申し込み51名。イベント参加者総数約80名。 吉開章さんの講演のほか、パネルディスカッションを行った。	「はじめようやさしい日本語」のパンフレットを伊賀日本語の会が編集、国際交流協会が発行してもらい、当日参加者に配布した。					計画通り進めている	
			国際交流協会	市民等を対象とした「やさしい日本語」研修会の開催 地域での「やさしい日本語」取組のための支援	・市民対象の「やさしい日本語」研修会を1月22日（月）に開催、仕事関係が必要のある方を中心に23名が参加した。2回目として3月17日（日）には、日本人と外国人とが「やさしい日本語」で話そうという企画で現在参加者を募集している。 ・地域で「やさしい日本語」に取組んでもらうため、講師派遣を計画し自治協、市民センターへ連絡した。（講師料は当会負担、実施主体は自治協等）	・市民対象の「やさしい日本語」研修会には、仕事で必要な参加者が多かった。アンケート結果からも好評であった。 ・地域での「やさしい日本語」取組支援は、1地区の開催にとどまった。PR方法や取り組み方法を考える必要がある。	b：取組実績把握				計画通り進めている	
			中外医薬	外国人の方だけではなく、障がい者の方にも「やさしい日本語」の取組を進めていく。	仕事内容についても「やさしい日本語」で説明するよう取り組んだ。	仕事の理解度が上がり、仕事以外の面でも社員同士コミュニケーションが取りやすくなった。					計画通り進めている	
3-B-(1) 文化・スポーツ交流の促進	① 多文化交流機会の充実	—	上野図書館	多言語おはなし会の開催	多言語で外国語表記のある絵本等の読み聞かせを行う。	ベトナム語、ポルトガル語、英語、日本語での読み聞かせ会を行った。参加者の外国語への興味を育むことができた。外国につながるのある子どもの参加を増やすことが課題。	a：数値把握	多言語おはなし会の開催	2回	2回	計画通り進めている	
			多文化共生課	多文化共生理解事業や国際交流フェスタなどを通して多文化交流の機会を充実します。	・市民対象の「やさしい日本語」研修会を1月22日（月）に開催、仕事関係が必要のある方を中心に23名が参加した。2回目として3月17日（日）には、日本人と外国人とが「やさしい日本語」で話そうという企画で現在参加者を募集している。 ・地域で「やさしい日本語」に取組んでもらうため、講師派遣を計画し自治協、市民センターへ連絡連絡した。（講師料は当会負担、実施主体は自治協等）	・市民対象の「やさしい日本語」研修会には、仕事で必要な参加者が多かった。アンケート結果からも好評であった。 ・地域での「やさしい日本語」取組支援は、1地区の開催にとどまった。PR方法や取り組み方法を考える必要がある。	a：数値把握	多文化共生理解イベントの実施	3回	4回	計画通り進めている	
			伊賀の伝丸	交流イベント企画支援、通訳翻訳支援	青山地区で、やさしい日本語を紹介。外国出身住民もゲストとして参加。	外国出身住民と交流をとおしてやさしい日本語の必要性を実感してもらうことができた。				—		
	② 市民、地域が主体となった交流の促進	—	多文化共生課	出前講座などによる、多文化理解の啓発を行います。	団体等の依頼を受けて出前講座を実施しました。 地域主催の交流会への参加を外国人住民に呼びかけ、地域住民と繋がるきっかけをつくることができました。	交流会をきっかけに地域住民との交流が生まれました。こうした動きが各地域で広がっていくよう、引き続き出前講座等で多文化理解の啓発を行います。	a：数値把握	出前講座の実施	1回	4回	計画通り進めている	
			エクセディ	伊賀FCくノー三重のホーム試合を安く観戦できるように補助	・伊賀FCくノー三重のホーム試合を安く観戦できるように補助	3～10月 伊賀FCくノー三重ホームゲーム観戦 5/28 クリーンキャンペーン&くノー観戦 11/26 クリーンキャンペーン				—	完了	
			伊賀の伝丸	交流イベント企画支援、通訳翻訳支援	音楽での交流会などの企画をサポート				—			

展開 方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2023(R5)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画	2023（R5）実施事業の進捗状況・実績						
						事業の内容	事業の効果・課題・改善案	タイプ※	指標名	見込値 (2023)	実績値	進捗状況
	3-C-(1) 学習・文化活動 に参加できる環 境づくり	① 生涯学習・文化 施設等における多言 語対応の推進	ー	上野図書館	外国語の絵本の充実	外国語表記のある絵本を充実させ、外国につながりのある子ども等に供するとともに、異文化理解にもつなげる。	計画通りに購入を進めている。既に配架している外国語表記のある絵本同様に、利用者に貸出し読み聞かせ会の題材として活用予定である。冊数を増やしたにより、より外国語への興味や異文化への理解を育むことができる。	a：数値 把握	外国語の絵本の購入	未定	22冊	計画通り進めている
				生涯学習課	生涯学習事業資料を簡単な言葉で作成するなど、わかりやすく提供するよう努めます。	一部の生涯学習事業(講座や教室)の案内チラシにルビをつける、簡単な言葉を使用することを意識して作成しました。	これまで参加のなかった事業に外国籍家族の参加があるなど、一定の効果があった。 今年度は、小学生以下対象の事業案内にとどまったが、今後は全市民向けにも広げたい。	d：把握 困難			—	やや遅れている
				伊賀の伝丸	企画支援、通訳翻訳支援						—	
	3-C-(2) 外国人住民との 連携・協働	① 住民同士の連 携・協働の促進	ー	医療福祉政策	地域住民と外国人住民が交流する事業等について、地域福祉ネットワーク会議を中心にそれぞれの地域で検討していくように努めます	各地域で地域福祉ネットワーク会議が開催され、地域での交流について検討されました。	地域アセスメントなどをふまえ、地域の状況に応じた交流のあり方を考えていく必要があります。	b：取組 実績把握			—	計画通り進めている
				多文化共生課	外国人防災リーダーなどを活用し地域との交流の機会を促進します。	地域支援者の方を対象に実施した「やさしい日本語講座」に、外国人防災リーダーもスタッフとして参加しました。 (災害ボランティアセンターとの協働事業)	地域の防災訓練等に外国人防災リーダーの活躍の場を広げていきます。	b：取組 実績把握				計画通り進めている
				伊賀の伝丸	企画支援、通訳翻訳支援	外国人防災リーダーの講座などで、地域住民に外国人住民と協働する場を設けることが出来た。	初体験方は、コミュニケーションにも苦勞していたが、平時からこのような企画を実施しておくことは意義深いと感じた。					

伊賀市多文化共生推進プラン（第１期）進捗管理シート

展開 方向	取組の方向	取組内容	主な事業（具体的な取組）	取組主体	2023(R5)年度 各主体の取組提案 市の事業(取組)計画			活動指標(把握可能なもの)				
						事業の実施内容	事業の効果・課題・改善案	タイプ※	指標名	見込値 (2023)	実績値	進捗状況
	4 - A -(2) 双方向による情報受発信	② 情報を「つなぐ」機能と体制の構築	◆企業従業員等への情報提供の充実	上野商工会議所	外国人を雇用している会員企業に情報発信を行う。	約1500の会員事業所に毎月会議所ニュースを送付。		b：取組実績把握			—	計画通り進めている
	4 - C -(3) 外国人起業家などへの支援	① 外国人起業家への支援	—	上野商工会議所	確定申告、国・県・市の支援金、給付金、補助金等についての説明指導	確定申告、県の補助金申請、市の支援金申請について説明指導を行った。	言葉の壁はあるが、通訳の方がついてきていただいたり、ある程度日本語ができる方が多いので、日本人の事業主と同様困っている点をヒアリングさせていただき、相談及び情報提供等させていただいた。	d：把握困難			—	

■伊賀市多文化共生推進プラン 第1期（2023-2026） 成果指標実績表

展開方向1 だれもが安全に安心して暮らせる地域づくり

		2022		2023	2024	2025	2026
指 標	伊賀市に住んでとてもよかったと感じている外国人の割合（％）	現状値 39%	目標値	41%	43%	44%	目標値 45%
			実績値	41%			
			達成率	100%			
	外国人防災リーダー研修受講者 累計人数（人）	現状値 14人	目標値	30	35	35	目標値 35人
			実績値	31			
			達成率	103%			

展開方向2 教育・子育てしやすい地域づくり

		2022		2023	2024	2025	2026
指 標	とても子育てしやすいと感じる人の割合（％）	現状値 39%	目標値	43%	47%	51%	目標値 55%
			実績値	35%			
			達成率	81%			
	高等学校への進学率（％）	参考値 95% (2021)	目標値	97%	98%	99%	目標値 100%
			実績値				
			達成率				

展開方向3 国籍を越えた交流による地域づくり

		2022		2023	2024	2025	2026
指 標	日本人との交流がある外国人の割合（％）	現状値 44%	目標値	46%	47%	48%	目標値 50%
			実績値	40%			
			達成率	87%			
	「やさしい日本語」の研修受講者 累計人数（人）	現状値 35人	目標値	75人	115人	155人	目標値 180人
			実績値				
			達成率				

展開方向4 外国人住民も活躍する地域づくり

		2022		2023	2024	2025	2026
指 標	外国人住民の審議会等委員 延べ人数（人）	現状値 5人	目標値	6	7	8	目標値 8人
			実績値	8			
			達成率	133%			
	差別を受けたことがある人の割合（％）	現状値 21%	目標値	15%	10%	5%	目標値 0%
			実績値	18%			
			達成率	83%			